

第2回 加茂市総合計画審議会会議録

日 時：令和7年3月26日（水）14：00～16：00

場 所：加茂市役所 301～302会議室

出席者：会 長	鷺見 英司	職務代理	乙川 智子
委 員	佐藤 愛子	委 員	西村 裕之
委 員	田下 一男	委 員	高橋 悦子
委 員	阿部 駿	委 員	皆川 暁洋
委 員	横堀 正満		

欠席者：委 員 渡邊 彩

事務局：政策推進課

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 議 事

- （1）アンケート調査結果、市民ワークショップの実施報告
- （2）前期基本計画の評価について
- （3）後期基本計画の骨子案について
- （4）意見交換

4. 事務連絡

5. 閉 会

14 時 00 分 開会

○政策推進課長 ただいまから「第 2 回加茂市総合計画審議会」を開催します。年度末のお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。政策推進課長を務めています齋藤と申します。

はじめに、配付資料の確認です。お手元に資料の一覧表をお配りしていますので、ご確認いただき、不足等ありましたら事務局までお知らせください。

本日審議会委員 10 名のうち、9 名の方に出席いただいています。定員の半数を超えていますので、定足数に達していることをご報告します。渡邊委員からは本日、欠席の連絡をいただいています。欠席された場合の対応ですが、事前に審議会の資料をお送りしますので内容をご確認いただき、委員から頂戴した意見を審議会の場で紹介させていただきます。今回欠席された委員から提出された意見については、参考資料 3 として配付しておりますのでご確認ください。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず、次第の 2 番、鷺見会長からご挨拶を頂戴したいと思います。会長よろしくをお願いします。

[会長 挨拶]

○政策推進課長 それでは次第の 3 番、本日の記事入りしたいと思います。審議会条例により、会長に議長をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長 それでは議事を進行させていただきます。まずその前に、本日の審議会の議事録についてですが、西村委員にご確認をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか？

[西村委員 了承]

○議長 それでは議事を進めさせていただきます。議事（1）アンケート調査結果、市民ワークショップの実施報告ということで、事務局の方からのご説明をお願いしたいと思います。第 1 回目の審議会でアンケート調査及び市民ワークショップを実施したということについては事務局の方からご報告いただきましたが、内容を教えていただきたいという意見もありましたので、今回改めてアンケート調査と市民ワークショップの結果をご説明いただこうと思います。それでは事務局の方からご説明をよろしくお願いします。

[事務局が説明]

○議長 何か委員の皆様からご質問ご確認等ありますか。

○委員 今後、人口減少対策として中学生アンケートが非常に有効ではないかと思います。加茂市に愛着を感じている生徒の割合が、前回調査から 19.2 ポイント上昇しているという大変嬉しい数字が出てきていますが、この増加した要因が何なのか事務局としてはどのように捉えていますか。この要因が分かれば、今後それを重点課題として取り組むことによって、さらに割合の上昇に繋がれるのではないかと思います。

○事務局 はっきりとした要因については分かっていませんが、推測として意見を述べさせていただきます。前回のアンケート調査は令和 2 年に実施していますので、その後政権

が変わり学校教育への取り組み方も変わりました。総合学習の授業として市内のことを学んだり学校の外に出たりする機会が増えたことも愛着を感じる生徒が増えた一因としてあるのではないかと思います。また、テレビで加茂市のお店や加茂山公園、リス園といった加茂の魅力を紹介していただくことが増えていますので、自分たちの町にはこういう良いところがあるのだという気持ちが生徒たちの中でも生まれてきたのではないかと感じています。

昨年、葵中学校でお話をさせていただく機会がありましたが、そこでも生徒たちは自分たちのまちのことを自然が多いとか好意的に受け止めているような発言がみられました。その他、アンケート調査結果にもありましたが商店街が賑やかになってほしいなどの声もありましたが、皆さん自分のまちに愛着を持っていて、そのような様々な要因が重なって愛着を感じている生徒の割合が上昇したのではないかと思います。

今後も、学校統合に向けて新たな教育ビジョンが令和7年3月に策定されましたが、その中でも総合学習のブラッシュアップという形で地域探究学習「加茂学」の取り組みも始まりますので、ますます期待できるところではないかなとも思います。

一方で、愛着を感じていても、ずっと住み続けたいかどうかは別問題になっているため、その辺りのギャップを埋めることができる取り組みをしていかなければいけないのではないかと感じています。

○議長 中学生もあと数年すれば高校生になり、高校卒業という形で人生の一つ目の大きな意思決定を迫られるわけですから、こういう方たちの意見はすごく大事なことだと思います。このようなことが改めて市役所の皆さんと共有されていくということが今回のアンケート調査の非常に大きな意義だろうというふうに思います。私もこの調査結果を見させていただいたときに、中学生の方たちは非常に真剣に回答していることが分かりましたので、ぜひ皆さまからも報告書の本体をご覧くださいければと思います。

他いかがでしょうか。

○委員 先ほど別の委員からも発言があったように、この中学生アンケートの結果は非常に重要だと思いますが、市内の中学3年生の人数が約150人ということは非常に危機的な数字だと感じました。

子どもの数はどんどん減ってきて去年は100人以下しか生まれていないと聞いています。将来的には生徒数が半分以下になることを考えたら、真剣に少子化について考えていけないと思いますし、若い人たちにどう魅力を届けて加茂市に留まってもらうのかということに重点を置かないといけないのだと改めて思いました。

○委員 市民アンケートの結果について、満足度と重要度がともに低い取組として「町内会」、「住民自治」が挙げられていることが非常に気になります。子どもたちが将来ここに住むときには、つまり地域に住むわけですから、そこで満足度が得られないということはいかがなものかと思います。加茂中学区では、総合学習とは別に地域で子どもたちを引き受ける活動を行っていて、2年ぐらい前までは地域の清掃に行くとかそういうものでしたが、去年

から地域のいろいろな活動に中学生も参画する場面を作ろうということで今取り組んで来ています。地域で住むことを考えると、どうしても交流する場面が必要になるのだろうと思っていて、町内会の満足度を上げるような取組をどうすればできるだろうかと感じています。

○議長 少子化対策や地域コミュニティのことについても、今後、基本計画の中でしっかり議論していきたいと思います。町内会については、やはり少し後回しになってしまっている分野なのではないかという気もします。重要度が少し低いということについても、どの年齢層の集計結果を見てもそういう傾向があることが分かります。その地域がしっかりしていると、満足度と言いますか、居住に対する意向も高まっていくと私も思いますので、そのような取組が必要なのではないでしょうか。

○委員 地域と満足度の関係について、自主防災組織の結成がなかなか進まないのも、やはりその地域への所属意識があまり高まらないからではないかと感じています。3年前から自主防災組織を立ち上げるということを様々なところに市の人から来ていただいたりして一生懸命やっていますが、連絡網1つ作ることも大変なぐらいです。

○議長 その他ご意見等はいかがでしょうか。

○委員 中学生アンケートで「住み続けたいが進めない」と回答した生徒の割合が増えたということは、私は非常にポジティブなことだと思っていて、加茂市にずっとこのまま住み続けたいということよりも、市外や県外とかで挑戦したいとかそういうアグレッシブな気持ちが表れた結果なのではないかというふうに感じました。

課題は、20歳とか30歳になったときに戻ってきってくれるかどうかだと思いますが、それに関しては、恐らく市民ワークショップでもあったとおり、企業誘致や起業支援みたいなのところにつながるのだろうと思います。しかし、企業誘致も工場を持ってくることは難しいと思うので、今後のことを考えると商店街を活用するなどの話になるのではないかと思います。そういった意味では、この課題への対策はかなり明確なのではないかと思います。自分自身で店を開くということも含めて市内で何か仕事があれば、市外に出た人たちも戻って来なくはないという感じだと思うので、何かそのような形の受け入れ先が増えると非常にいいと思います。

○議長 「住み続けたいが住めないと思う」と回答した生徒の割合が35.3%ということは、中学生の皆さまが非常に現実をしっかりと見ていることの表れなのではないかと思います。愛着が強いということは、加茂に対する思い入れがあるということです。将来に何かのきっかけで戻って来やすいようなまちづくりができれば、また回答も変わってくるのではないかと思います。

○委員 20代から40代の回答率が低いところが非常に問題だと思います。子どもからすると、自分の親が幸せそうで楽しそうに仕事をしていたり、地域に参加していたりすると、子どもたち自身も加茂市はいいまちだと感じるのではないかと思います。若い世代の市民アンケートの回答率を増やす方法を考える必要があると思いますが、皆さん忙しいので、例

えば地元企業の経営者の方に頼んだりして、従業員の人たちから回答をもらうなど工夫をしながら若い世代の回答率が増えるようにするといいいのではないかと思います。

○委員 私も市民アンケートの回収率が低いことについて残念だと思いますし、もしこれが高くて高い回収率であればより精度の高いアンケート結果が得られるのではないかと思いますので、次回またこういう機会があった際には回収率が上がるような工夫をしていただきたいと思います。

○議長 アンケート調査については、年齢が偏らずに若い人たちの意見がしっかりと反映されるべきですし、多くの方に回答していただくことが大前提になると思いますので、また何年か後にアンケート調査を行う際には工夫して実施いただくということで、ぜひご検討いただければと思います。

それでは続きまして、議事（２）前期基本計画の評価について、総合計画の冊子をお持ちの方は 20 ページをご覧くださいますと体系図が載っていますが、この緑色のところは、今回は変えない基本構想の部分になります。一方で、青色の基本計画の見直しをこれから行っていくということで、これまでの前期計画に沿って実施してきていただいた結果をまず皆さまにご説明してご意見を頂戴するということで進めさせていただきたいと思います。それでは事務局の方からご説明をよろしくお願いします。

[事務局が説明]

○議長 何か委員の皆様からご意見ご質問等ございますか。

○委員 指標の設定の根拠が明確なのかということについて、前期計画のものについては疑問に思ったところです。情勢が変わってきていることもあるとは思いますが、そのところをしっかりとしないと、達成見込みに×が多くなってしまいます。反対に、ここで全部○がついたら「笑顔あふれるまち加茂」ということになると思いますので、やはり指標の設定は非常に重要だと思います。

○議長 見直していただいたものをまた次回の審議会でご提示いただきたいと思いますので、例えば、何かこういった指標が気になるなどご意見があれば、また事務局の方でもご検討いただけるのではないかと思いますので積極的な発言をよろしくお願いします。

○委員 達成見込みの○×というのは、目標に到達したか・してないかというそれだけの評価でしかありませんので、例えば、ABC の評価に分けて達成率 75%以上だと A、達成率 74%から 50%で B、それ以外で C というような形で評価するのはいかがでしょうか。このような区分で評価を細分化することで、より政策の効果がでてくるのではないかと思いますので、○×の評価ではなく達成率というものを設定してみるといいのではないかと思います。

○議長 委員からの発言のとおりだと私も思っています、結構いいところまで達成率が上がってきているのに×というものがあつたりします。達成率が何割まで到達していれば A など評価を細分化することも一つの方法だと思いますのでご検討いただければと思います。

また、財政的な制約が非常に強いということもあります。それから、若い方たちの担い手

不足が足かせとなってしまっているように事業展開できないようなこともあるということとをまずは皆さまと共有できればと思います。

指標の設定については、なかなか数では達成するのが難しい指標は率で設定し直す案も事務局から出ていましたが、量よりも質で評価できるような方向でご検討いただけると非常にいいと思います。

では、このような評価をしていただいているということと、それから今後の改善に向けての方針の2つをお示ししていただきましたので、このような方針で新たな基本計画の策定を進めていただくということでよろしくお願いします。

ここで5分ほど休憩をとらせていただきます。

[休憩]

○議長 それでは時間になりましたので再開させていただきます。議事(3)後期基本計画骨子案について、基本計画というのは加茂市の目指すべき将来像「笑顔あふれるまち加茂」を実現するための具体的な内容を示す部分ですが、この基本計画を今回どういうふうな形で見直していくのかというところのご説明を事務局からしていただきますのでよろしくお願いします。

[事務局が説明]

○議長 大きな計画の枠組みの変更と、各政策の展開の整理として重要度順などを変更するという骨子案をご説明いただきました。何か委員の皆様からご意見ご質問等ございますか。

○委員 時代の流れとしてこの脱炭素社会の実現ということが言われていますが、加茂市がこれをどこまで本腰を入れてやる気があるのか気になっています。例えば、指標もどのように設定するのかなど何をもって脱炭素というふうに取り組ませたいのかまいち中身が見えないものですので、どのようにして実現を目指そうとしているのか、分かる範囲で構いませんので教えてください。

○事務局 加茂市がゼロカーボンシティ宣言というものを表明してしまっていて、内容は2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指すという宣言になっています。具体的な取り組みということですが、例えば、公共施設に再生可能エネルギー設備を導入するとか、家庭や事業所に省エネルギー機器の購入の補助金の交付を検討しているということを担当課からは聞いています。

○委員 温暖化なのでこういう取組が必要だとは思いますが、2050年にゼロにするというのは実質不可能ではないかと思うので、そういう目標を掲げてしまうのではなくもう少し実現できるような何%減少するというような目標になるといいのではないかと思います。

○事務局 先ほどの事務局からの回答に補足しますと、具体的に二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることが可能かどうかというところは長期的な目標となっていますので少し横に置いていただいて、当面の市の取り組みとしては、公共施設に再生可能エネルギー設備を

設置するということになります。今のところ、令和 10 年に子育て支援拠点となる施設をこの市役所の敷地内に建設する予定ですが、そのような新しい施設を作るときに、再生可能エネルギーの設備を導入する予定です。その他にも、これから公共施設の再編が始まりますが、その中で改修した施設にはソーラーパネルなどを設置して電力を賄うなどして極力脱炭素化を実現したいと思います。市民バスも入替のタイミングで EV バスを選択するなどの検討をしていくことでまずは公が取り組んでいき、市民の方にも、例えば、省エネルギー機器の購入費の補助を行うなどの方法も考えられるかと思いますが、排出量ゼロという目標を掲げていますのでなるべくその目標に近づけるようにする方針です。

○議長 補足説明ありがとうございます。新潟県でも脱炭素社会の実現を目標に掲げた新しい総合計画が作られましたので、そういったところと歩調を合わせていくということは公のスタンスとして非常に大事だと思います。県の動向とかも見ながら、市民にとっても対外的にも脱炭素の取組は非常に重要なことだと思います。

その他いかがでしょうか。

○委員 総合計画の冊子の 33 ページ「施策 1.健康・医療」の「施策の展開 2.健康長寿の推進」で設定されている指標について、「65 歳以上人口に対する中重度（要介護 3 以上）認定率」を掲げていますが、この目標を達成するには要するに認定率を下げるということになります。これなかなか難しい話だと思います。実際問題として、要介護 3 の人が要介護 2 や要介護 1 に移るとするのはなかなか並大抵の話ではありません。ですから逆に言えば、要支援の人が要介護 2 にならないようにということだとフレイル予防に力を入れていけば可能だと思いますので、この指標については再度検討が必要ではないでしょうか。

また、37 ページ「施策 3.高齢者福祉」の「施策の展開 3.高齢者の生活支援」で設定されている指標について、「地域における高齢者サロン設置の促進」を掲げていますが、この地域サロンというのは自主的なものになります。老人クラブは、全国、県、市というふうに組織があってそれに準じたものになりますが、地域サロンはやりたいという世話人の方が自主的にやっているものです。それをこのように目標に掲げて数を増やそうとすると、その世話人を育てていくことになっていきますが、なかなか難しいと思います。

○議長 具体的なアドバイスが出ましたので、事務局は担当課の方と共有していただければと思います。数を増やすという目標は、それだけ中心となって活動する人たちの確保が当然必要になってきますので、単に数を増やすという目標の設定の仕方は検討の余地があるのではないかとのご指摘でした。

○事務局 担当課からも「65 歳以上人口に対する中重度（要介護 3 以上）認定率」につきましては、同様の理由で指標には掲げないことにするというのを聞いていますのでご報告します。

○議長 皆さんがお考えになっている間に私からも 2 点意見を述べさせていただきます。1 点目は、今回、案として結婚支援を削除されるということですが、確かにそういうご時世ではあります。ただ、統計上、日本にいる婚外子は 2%しかいません。ですから、やはり結

婚ができないと子どもが生まれる確率は大幅に下がってきますし、県内の自治体で見てもやはり既婚率が低いところは子どもが生まれません。そのため、結婚支援というとなかなか行政的には難しい立場にあるかもしれませんが、少子化対策として何かしら考えておかなければいけないところなのではないかと思います。どこの地域においてもそうですが、結婚をしたいと思っている方が結婚できるような環境を作っていくことが重要で、何か足かせがあるならば取り除いてあげることを誰かがやっていかないと、恐らくまちの将来に非常に大きな悪影響を及ぼす可能性があります。これは健康面など様々なところに波及してくる問題だと思いますので、子育て支援の中に入れるということよりも、QOL というか市民生活の向上というところでもしっかりと取り組んでいかなければならないのではないかと思います。ただ、事務局からの説明にありましたとおり、市として結婚支援をやめるわけではないとのことでしたので総合計画に書かなくてもいいとは思いますが、結婚支援は非常に大事な視点だと思います。

それから2点目は、上下水道が気になっていまして、他の自治体と比べても、例えば、下水道の普及率が少し低かったりします。70%とか 80%ぐらいの人たちしか下水道にアクセスできない状態になっているというふうにこの数字から読めますが、それだけ汚水処理されていない水がどこかに流れているということです。加茂のイメージだとすごく綺麗な水とか環境が良いというイメージがありますが、下水道を見ると数字があまり良くないので、クリーンなイメージとは裏腹に違う側面が出てきたと思っています。それから、上水道も有収率が非常に低いので、水がたくさん漏れているということになります。今、上下水道は非常に市民からの満足度も重要度も高く良い取組になっていますが、埼玉県であった陥没事故のようにどこかで大きなことが発生したときには、極端に不満足の領域に入っていくようなものだと思います。そのため、地道にこのような課題に取り組んでいかないと、市民生活としても5年後、10年後に非常に大きな影を残すことになるのではないかと思います。お金がないとは思いますが、何かしらのアクションを取らないといけないのではないかと思いますというのが私の意見です。

○委員 先ほど会長がおっしゃったように、これは結婚支援にも繋がると思いますが、新潟県だと特に若い女性がどんどん県外に出ているという状況で、将来20代、30代の女性が加茂に帰ってきてくれるように考えると、やはり働く場所が確保できているかということが一番大事だと思います。働きやすい環境をどう整えるかということについては、例えば、若い人が社長をやっていたり、若い人がたくさん働いていたような環境を増やさないといけないと思います。そのため、ベンチャー支援みたいなところは必須ではないかと思います。他の地域だとコワーキングスペースとかにベンチャー企業が入っていることもありますし、そのような施設が加茂駅前にあってもいいのではないのでしょうか。商店街でも若い人が店を出しやすくする施策があると良いと思います。

それと、まちの賑わいに関して、せっかく観光客が来ても商店街のお店が土日になると店が閉まっているということがあって、これは行政に何かできる話ではないと思います

が、例えば、土日営業するお店には補助金が多くなるとか何かそういうもので促すようなことができると思います。普段、市民が商店街を日常使用するというのも大事ですが、せっかく市外から加茂に来てもらってもお金を落とせない状況を解消できるような取組ができたというふうに思います。

企業はやはり固定費が一番きついと思いますので、固定費を抑えるために安く、しかもすぐ撤退できるようなお手軽な場所に創業の場所を今ある施設をうまく活用して作ることも1つの手ではないかと思います。

○議長 起業するときに、新たに参入しやすいけど撤退もしやすいような環境が加茂にあるということは面白いかも知れません。他に何か委員の皆様からご意見ご質問等ございますか。

○委員 観光スポットを設置してもらえないものでしょうか。田上町が道の駅を作って収益力が上がったのではないかと考えています。

将来的に小中学校の統廃合が進んで、閉校する学校として例えば加茂小学校を加茂の一大観光スポットに生まれ変わらせて道の駅のような観光スポットを設置するというようなことを、お金がないのはよく分かっていますがそのような方向性を選んでほしいと思います。

○議長 せっかく近くまで来ている方がいらっしゃるのだったらもう少し脚を伸ばしてもらえそうな場所があるといいかもしれません。中学生も若い方もそうですが、やはり商業施設とか買い物の利便性を重要なポイントとして置かれているので、少しずつ利便性が高まっていくと思います。他に何か委員の皆様からご意見ご質問等ございますか。

○委員 加茂は学園都市なので、商店街や産業の活性化を教育と掛け合わせて、高校生や大学生がポップアップストアを開いたり、何かチャレンジできたりするような場所があるといいのではないかと思います。加茂市の規模だからこそお試しでできることが加茂の魅力なのではないでしょうか。その場所も商店街の一角を使うことで、若い人たちが商店街に行き来するようになるとか、そういう新しい扉も開くのではないかと思います。

また、「基本目標 4.芸術・文化、スポーツ、自治・人権」に関して、施策の展開にある人権啓発、男女共同参画の推進の取組は言葉にすると固い表現になってしまいますが、加茂市の皆さんが幸せで、Well-being であることを目指す取組であると思います。高齢者ケアももちろんそうですが、子どもが生まれたときからの一生を見たときに、最期まで Well-being で生きていくことが加茂市でできるという長期的な視点で考えていただきたいです。先ほどお話ししたような学生がやりたいことができる、なりたい自分になれるような環境を作ることができれば実現できるのではないかと思います。

また、計画の策定を指標に設定している施策がいくつかありますが、計画を策定した後にどれだけ加茂市の皆さんの心の充実度があるのかとか満足度があるのかとかそのようなところを測っていく必要があるのではないかと思います。

その他にも、「施策 1.生涯学習」の「施策の展開 3.図書館サービスの充実」で設定されて

いる指標の「貸し出し冊数（年間）」について、今の時代デジタルで本を読む人も多いと思いますし、図書館で本を借りるということが減っていると思いますので、図書館の貸し出し冊数の減少だけで本を読んでない人が増えたということは判断できないのではないかと思います。図書館利用者数を計る1つの基準にはなるとは思います、貸し出し冊数を指標とすることは単純すぎるのではないかと感じました。

指標の目標値がどれも実績とはかけ離れて高すぎることも気になりましたので、その見直しも資料5のとおり見直しをしていただければと思います。

参加者数などを指標としているものについては、例えば認知症サポーター数や救命講習会の受講者数など伸び悩んでいますので、学園都市である加茂にいる学生に受講してもらって学んでもらうということも学校との協力で検討してみてもいいのでしょうか。人口減少と少子化が進んでいますが、市内の学校に通う学生も人数に含めて考えればぐっと可能性は広がるのではないかと思います。

○議長 最初にご発言いただいた男女共同参画にしても、計画を作ったその先にあるものが大事で、Well-being とおっしゃっていただきましたが、要は将来像なのだと思います。

「笑顔あふれるまち加茂」という大きな目標に結びつかないと意味がないことをご指摘いただいたと思いますので、指標の立て方として何かこういうことをしましたとか設置しましたということで終わらないで、次のステップとしてはその先の成果としてどう Well-being に繋がっていくのかということ踏まえた計画作りを検討してほしいと思います。

また、学生さんが多いということは他のまちにない魅力だと思いますので、学校との連携も強化すれば、様々な指標が改善していくし、それが1つの売りになっていくのではないかとご指摘だったかと思いますので、担当課にお伝えいただいて、施策を考えていただければと思います。

もう少し皆さまから意見交換をするような時間もいただいていますので、どんどんお気づきの点をご発言いただいてもよろしいでしょうか。

○委員 10年後には恐らく市内の建設屋は半分ぐらいになると思います。事業継承もできず、市内の公共事業費ではとても食べていけないということがありますので、会社を維持するためにはもう市外に出ていくしかありません。上水道とか下水道についても陥没事故がありましたし、除雪もそうですが、今は維持できているので高い満足度が得られていると思いますが、恐らく10年後にはそれをやる人たちがもういなくなるというのが現状です。今ですら人がいないことが毎年話題に挙がってきますし、昔ほど市とも意見交換する場がなくなってきました。このような状況ですので、10年後には市民の満足度が落ちることは目に見えています。

防災についても、災害が発生したときに最初に駆けつける人は、実は自衛隊でも警察でもなく、建設屋です。水害のときもそうでしたが、24時間体制で現場を回さなければいけないので、またそのような大きな災害が発生した場合はもう半分しか建設屋がいらないため、対応も恐らくできないだろうと思います。

○事務局 建設事業者の方には、除雪や水道に何かあったときにいつも出動していただいているわけですが、ご発言のとおり、建設事業者もなかなか担い手がないということで、その理由としては仕事先として選ぶ方が少ないのか、それとも手はあっても仕事が少ないのかどちらでしょうか。

○委員 私の肌感覚としては、仕事先として選ぶ方が少ないのではないかと思います。外仕事ですので体力的な面が課題になりますし、給料がたくさんもらえるのであればまだ人は集まると思いますが、やはりどのハローワークに行っても建設業より雰囲気で工場勤めのほうがいいですとなりますので、求人してもなかなか人が集まりません。同じ給料をもらうのであれば外には出ないだろうと思いますので、やはり会社が儲かった分、給与に反映できればと思っています。

また、建設業は魅力を発信する力も弱いため、こちらも併せて課題だと思います。

○事務局 ありがとうございます。先ほど下水道の陥没事故の話もありましたが、そのようなことが起こらないように加茂市の方でも予算は少ないですが点検や更新に取り組んでいるところです。公共事業としてインフラの整備は当然今後もやらなければいけませんし、他にも公共施設を再編する中で、改修事業等も出てくると思います。担い手不足についても、何年も前から除雪のオペレーターがいないという話を伺っていますので、課題解決に向けて取り組みたいと思います。

また、建設業界に対する支援として、行政としてできることは公共工事を増やすことという理解でよろしいのでしょうか。

○委員 それができるのであればありがたい話だと思いますが、もちろん加茂市の財政を考えれば難しいことは分かっています。ただ、水道に関しても漏水箇所がものすごくあるわけですね。それなのに水道事業者として実際に作業する人は減っています。何年前かに市内でも水道管が立て続けに夜中に破損する事故がありましたが、恐らくこの先、似たようなことがかなり頻繁に起きる可能性があると思います。そのため、お金をかけるところはかけないといけませんし、この間の陥没事故もありますので、例えば、事故を未然に防ぐためには水道料金を上げるなど市民の皆さんに不利益なことも理解してもらうことが必要だと思います。事業者に対しては、お金を出せば解決できるのかは分かりませんが、その辺りは組合や地元の皆さんにも理解してもらう必要があって、除雪が来ないとか、水道が濁るとか、そういうことも起こり得るということをまずは理解してもらうことが必要だと思います。

○議長 新潟県としては建設業を対象に若い方の定着への取組に助成する施策などを行っていますので、そのような助成制度の活用を地方創生の取組の一環として行うことも1つの手かもしれません。やはり建設業というと、イメージとしてはきつい仕事だという一面がありますので、どうしたら若い人たちのライフプランと建設業という仕事が両立していくのかということを手早く発信できれば就職に繋がっていくのかもしれないですね。

インフラに関しては市民生活と命に直結する部分もあると思いますので、大事なことで

してこのような問題を1人でも多くの市民の皆さまと共有することが重要だと思います。まだあと少しお時間がありますが、他に何か委員の皆様からご意見ご質問等ございますか。

○委員 資料7について、「基本目標5.都市の魅力創造、産業・雇用」の「施策1.魅力あるまちづくり」と「施策3.中心市街地の活性化」で使われている言葉の意味を確認させてください。例えば、「施策3.中心市街地の活性化」の「施策の展開1.商店街を中心とした賑わいづくり」では商店街を中心としてまちなかの活性化を目指すことが記載されているが、「施策の展開3.賑わいの拠点整備による交流促進」では加茂駅周辺を賑わいの拠点とした中心市街地の活性化と記載されている。商店街、中心市街地、まちなかといった言葉の使い分けはどのようにされていますか。

○事務局 ご指摘ありがとうございます。都市計画的な視点で見た場合は駅前が中心市街地になりますし、商工観光の視点からいくと中心市街地は商店街になってきますので、それぞれの担当課の言葉で現状記載しています。そのため、このような分かりづらい部分が出てきますので、なるべく皆さんに分かりやすいような表現に統一したいと思います。

○委員 ありがとうございます。加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム会議で加茂まちなか未来ビジョンが示されていますが、この未来ビジョンの中ではまちなかというのは商店街だけではなく加茂山の緑と加茂川の水とそれぞれの繋がりで成り立っているものになりますので、個人的には商店街を中心としたというよりも、このエリア全体での緑と水を含んだ賑わいづくりの方がよろしいのではないかというふうに思います。

また、前期計画では中心市街地におけるイベント開催数や美人の湯の入館者数、観光客の入込数という指標が設定されていたため、後期計画でもこのまま変更がないようだとイベントを増やすなどの方向性になるかと思われます。そうしたときに、特に河川敷でイベントをやろうとしたときのハードルがとても高く、河川占用許可を取る必要があるのですが、自治体ではない一般団体がこの許可を取るのは難しいという話を聞いています。また、商店街エリアで通行止めをする際に県道を使う場合は、県の許可が必要で交通規制のガードマンが必要など、イベントをやるにもものすごく労力がかかります。このような状況だと、中心市街地におけるイベント開催数を指標に設定することは難しいのではないかと思います。イベント開催のハードルを下げるためには、例えば加茂山公園の駐車場を使うとか、今後、小中学校統合が進んで加茂小学校の跡地を貸し出しできるように整備すれば、市の許可さえ取ることができればイベントができるようになります。施策の方向性として賑わいづくりを掲げていると思いますので、イベント開催のしやすさも検討していただければと思います。

その他にも、指標に設定している観光客入込数については、どのように統計をとっているのかによって人数が大きく変わってくるところです。施設の入館者数ならまだ分かりやすいですが、例えば加茂山公園に訪れた人のうち、児童公園に来てそのまま帰った方は人数としてカウントされないという現状です。指標にするのだとしたら、どこまでしっかりと人数

を把握するのか決めておくことが非常に大事だと思います。データ活用の重要性が取り上げられている中で、今までは感覚で大体 1,000 人みたいな集計方法が主流だったわけですが、そこをしっかりとデジタル化していくことは必要だと思います。

○議長 今後、それぞれの計画の目標を立てていくと思いますので、今のようなご意見が出たということを担当課には伝えていただきたいと思います。ずっと話題に出てきている目標値の積算根拠を明確にすることの重要性に関連して、特に観光分野はどれだけ有効なのか分からないような数字を使うことはよくないのではないかというご指摘だったかと思います。

ぜひそのようなところも観光協会と連携しながらやっていただければと思います。他に何か委員の皆様からご意見ご質問等ございますか。

○委員 使われていない公共施設が多くなっていますが、それを今後どのように解体していくのが気になります。古い建物がたくさんあるので市民としては早くどうかしてほしいと思います。

○議長 最近では公共施設の再編ということで全国的に取り組まれています。何かを整理しようとするとお金がかかるという難しさもあると思います。次回の審議会でもぜひご意見いただければと思います。他に何か委員の皆様からご意見ご質問等ございますか。

○委員 防災組織について、町内会の集まりに行くと「いざとなったらご近所さんだよね」という話になるのですが、そこをどう組織するかということが課題だと思います。うちの町内では消防団の人たちや役員と相談をして、せめてその連絡網が回るようにしようとしています。

それと、ごみカレンダーについて、前年からまた様式が変更になりましたが、サイズが変わって配りにくくなったと不評でした。恐らく一昨年に様式を変更した際に見づらくなると不評だったため今年も変更を加えたのだと思いますが、あまり言われたことを全部取り込もうとすると完成したものがどっちも取らないみたいなものが出来上がってくることになると思います。ある程度まで進んだら、市の姿勢みたいなものはあまりぶれない方がいいと思います。

○事務局 委員からのご発言のとおり、カレンダーが見づらいという声が昨年は非常に多くて、苦肉の策で昨年と一昨年のカレンダー両方の要素を取り入れたものになりました。今年のカレンダーも使いにくいという声がありましたが、例えば、昨年のもにに戻すと、また小さくなるわけです。以前のように大きいサイズが個人的には見やすかったと思いますが、どちらの方がよろしいのでしょうか。

○委員 個人の好みだと思いますが、大きいサイズも小さいサイズも用意して好きなほうを選ぶとか、個人の工夫で見やすいサイズに切り取って使うとかができればよいと思います。

○議長 先ほどご発言のあった防災組織についてですが、防災はハード面だけでなくソフト面も含めた両方がやはり大事だと思いますし、特に住民自治とか地域コミュニティの町

内会というものは、市民の満足度も重要度も低いところにありますので、そこはもう少し上げていただくような努力をしていただいた方がいいのではないかと思います。いくらインフラが整備されていたとしても、ソフト面がしっかりしていないと機能しないわけなので、そういうところもしっかりと住民の方たちの理解をいただくことが重要です。市民の中で地域コミュニティの重要度が上がるような取組が必要なのではないかと思います。このような意見が出たということは、担当課にも伝えていただければと思います。

○事務局 住民自治と町内会については、事務局の中で打ち合わせをしたときにも重要度と満足度を上げるための取組や原因が見えてこなかったため、今後も計画の中身をご審議いただきますが、そのようなご意見をいただけるとありがたいです。地域のこういうところで困っているとかそのようなことでもいいので、お話を聞かせていただけると地域コミュニティの分野の計画が良くなっていくと思いますのでよろしくお願いします。

○議長 それではちょうどお時間になりましたので、事務局の方からご説明いただいた後期計画の骨子案はこのような形で進めさせていただくということで、ご了承いただけるということでよろしいでしょうか。

それでは、このような議論があったということを庁内で共有していただき、今回の議論を踏まえた基本計画を作成いただきたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いします。

本日の議事は全て終了しましたので事務局の方にお返しいたします。

[事務局より次回の日程等について連絡]

○議長 以上をもちまして、第2回加茂市総合計画審議会を終了させていただきます。

16時00分 閉会